

真実を知ってください

有機溶剤/吸入ガス

スナツパー
アンパン
ポツパー

エア・イラスト
ラッシュ

drugfreeworld.org



この小冊子が 制作された理由

街 中や学校、あるいはインターネットやテレビの中で、薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

そうした薬物情報の多くは、売人によって広められたものです。今では更生したかつての売人は「薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言っていた」と証言しています。

そのような情報にだまされないでください。薬物乱用という罠を避けるためには、事実を知る必要があります。この小冊子はそのために制作されたものです。

この小冊子をお読みになった上で、皆様のご意見やご感想をウェブサイト **drugfreeworld.org** から、または **Eメール** info@drugfreeworld.org までお寄せください。

有機溶剤/吸入ガスとは？

有機溶剤・吸入ガスの乱用とは、即席のハイな感覚を得るために、揮発性の毒性物質を吸入することです。一般的な家庭用品の中で、1000種以上のものが有機溶剤や吸入ガスとして乱用されることがあります。最もよく使用されるのは、靴クリームや接着剤、トルエン*1、ガソリン、ライターのガス、「ホイペット（亜酸化窒素*2）」、塗料スプレー、修正液、クリーニング剤、「ポッパーズ（亜硝酸アミル*3）」、「ラッシュ（ロッカールーム用消臭剤）」、シンナーなどのペンキの溶剤です。

こうした化学物質のほとんどが、麻酔薬と同じような作用をもたらし、身体の機能を鈍くします。最初にハイな気分と抑制力の喪失があり、それから眠気と軽い頭痛、そして興奮状態に襲われます。

有機溶剤や吸入ガスに含まれる化学物質は、肺を通して速やかに血管に吸収され、すぐに脳などの器官に到達します。それにより身体に、あるいは精神に回復不可能な障害を与える場合もあります。

*1 トルエン：溶剤、または燃料として使われる無色の液体。

*2 亜酸化窒素：麻酔剤として使われる、無色で甘い臭いのするガス。

乱用者は、揮発する化学物質を直接鼻から吸入したり（スニフing）、化学物質に浸した布切れから気体を吸い込んだり（ハフing）して使います。直接鼻や口の中にスプレーを吹きつけたり、襟や袖や袖口につけて繰り返し嗅いだりして使用されることもあります。紙袋やビニール袋に入れた物質からガスを吸い込む「バギング」という方法もあります。密閉された室内でバギングを行うと、窒息の可能性が非常に高くなります。

「ポッパーズ」と「ホイペット」はコンサート会場やダンスクラブなどで売られている場合もあります。これらには有毒な化学物質が含まれており、身体や脳に治療不可能な障害を与える可能性があります。

*3 亜硝酸アミル：血管拡張剤として用いられる薄い黄色の液体。吸入ガスとして乱用されることがある。



有機溶剤/吸入ガスの通称

- | | | | |
|-------------------|---------------------|-------------------|--------------------|
| × エア・ブラスト | × 男のアロマ | × ムーン・ガス | × ホイペット |
| × ハイボール | × 笑気ガス | × スラスト | × ハードウェア |
| × 悪魔の秘密 | × スノットボール | × ブレット・ボルト | × ポッパーズ |
| × エームズ | × ボルト | × オズ | × ホワイトアウト |
| × ヒッピー・クラック | × ロッカー・ルーム | × トイレット・
ウォーター | × ハート・オン |
| × ショット・ザ・
ブリーズ | × ボッパーズ | × バズ・ボム | × クイックシルバー |
| × アミス | × メドゥーサ | × パール | × ヒアグラ・イン・ボトル |
| × ハフ | × テキサス・シュー・
シャイン | × トンチョ | × ラッシュ・ |
| × スナッパーズ | × ブレット | × ディスコラマ | × 貧乏人のマリファナ スナッパーズ |



「**接**着剤の吸引から始まって、ガスの吸引、マジック・マッシュルームへと次第にエスカレートしていきました。17歳になってからマリファナを始めました。持っているお金は全部マリファナにつぎ込んでいました。その頃はもうクラブに入れる年齢になっていたの、そこでアンフェタミンとエクスタシーをやり始めました…」

ヘロインをやっている連中と付き合い始め、すぐにヘロインをやるようになり、中毒になるまでエスカレートしました。それが後でどれほどの危険を招くか、何も考えていませんでした…他人の家に泥棒に入ったり、家族からお金を盗んだりして、何度も実刑判決を受けて服役しました。私のせいで家族が受けたショックや苦しみは、私が家族から盗んだもの以上に深刻でした。」— デニス

「小 学校4年のころに、友達から吸入ガスのことを教えられました。子供だった私は何も知らずに、中学2年生になるまで毎日、吸入ガスを吸うようになっていました。運動能力がひどく低下し、頭の中は真っ白で、ぼんやりと空を見つめて座っているだけでした。身体はそこにあって自分はそのにいないようでした。就職するのに大変な苦勞をし、12年間ひとりきりで暮らしてきました。外見は普通に見えますが、

女性に興味を示したり、話しかけようとする、明らかに活気がないことがわかります。こんな生活にはもううんざりしています。

こんなふう生きていくくらいなら死んだ方がましだと思うほどです。どっちみち、もうとくに死んでいるようなものなんですから。」

— ジョン

有機溶剤や吸入ガスが 身体に及ぼす影響

有機溶剤や吸入ガスは、心臓や腎臓、脳、肝臓、骨髄などに障害を与える可能性があります。

- ✖ 有機溶剤や吸入ガスによって体内の酸素が欠乏するため、心臓の鼓動が不規則になり、速くなります。
- ✖ 使用すると、吐き気をもよおしたり、鼻血が出たりします。聴覚や嗅覚が失われる場合もあります。長期にわたって使用すると筋肉が落ち、張りがなくなる可能性があります。有毒化学物質の影響により、

しだいに肺や免疫機能が侵されていきます。

- ✖ 有機溶剤や吸入ガスの使用者には「物質吸入突然死症候群」の危険性があります。それは有機溶剤や吸入ガスを初めて使用した時にも、また100回目にも起こる可能性があります。



7



短期的な影響

ほ とんだ有機溶剤や吸入ガスは、神経系に直接作用し、心理状態を変化させます。使用者は、ほんの数秒のうちにアルコールを取った時のような酩酊状態になります。使用中、あるいは使用直後に経験する影響には、以下のようなさまざまなものがあります。

- ✕ ろれつが回らなくなる
- ✕ 酔っているような様子。ふらつき。もうろうとした様子。
- ✕ 身体の動きを調節できない
- ✕ 幻覚や妄想
- ✕ 敵意
- ✕ 無気力
- ✕ 判断力の喪失
- ✕ 無意識
- ✕ ひどい頭痛
- ✕ 鼻や口の周りの発疹
- ✕ この種の化学物質を長期的に吸引することにより、不整脈や心拍数の急激な増加を招き、数分のうちに心不全を起こして死に至る可能性があります。
- ✕ 肺と中枢神経中の酸素がこういった化学物質と入れ替わることで、呼吸が止まり、窒息死を招く可能性があります。

長期的な影響

常用者が経験する症状は

以下のようなものです。

- × 筋肉の衰弱
- × 方向感覚の喪失
- × 筋肉の動きを調節できなくなる
- × 興奮しやすくなる
- × 抑うつ
- × 心臓、肝臓、腎臓、肺、脳の深刻な障害
(回復不能な場合もある)
- × 記憶障害、知能の減退
- × 聴力喪失
- × 骨髄の障害
- × 心不全、または窒息による死

有機溶剤や吸入ガスに慢性的に汚染されると、心臓や肺、肝臓、腎臓などが深刻な障害を受けることがあり、時に回復不能な場合もあります。

長期的に有機溶剤や吸入ガスを使用すると、健康上の深刻な問題をいくつも引き起こすと見られています。接着剤やシンナーを鼻から吸い込めば、腎臓に悪影響があります。トルエンなどの有機溶剤を鼻から吸い込めば、肝臓が損傷を受ける場合があります。有機溶剤や吸入ガスの乱用は、記憶障害や知能の減退にもつながります。

A man with dark hair and a beard, wearing a dark t-shirt, is holding a CD up to his mouth as if to kiss it. He is looking down at the CD with a focused expression. In the background, a woman with long dark hair is partially visible, looking towards the man. The scene is dimly lit, with a warm, golden light source on the right side, creating a dramatic and somewhat somber atmosphere. The overall tone is one of loss and remembrance.

「**明**日は私たちの息子ジャスティンの6回忌です。息子は16歳の時、芳香剤を吸入したことがもとで亡くなりました。ジャスティンが吸入ガスの乱用のような無分別な行為で死んだということに、息子を知る人誰もが強いショックを受けました。ジャスティンは快活で、生きることを楽しむ優等生でした…あの子のおかげで、多くの人が励まされてきました…もしジャスティンがその危険性を知っていたら、今も生きていたかもしれないと思うと、いたたまれない気持ちになります。」

— ジャッキー



有機溶剤や吸入ガスを使うと中毒になる？



有機溶剤や吸入ガスを使用すると、身体的にも
心理的にも依存してしまう可能性があります。
特に何日間も続けて使用した場合は、有機溶剤や
吸入ガスの乱用を続けたいという強い衝動に駆られることが
報告されています。

常習者が有機溶剤や吸入ガスの使用をやめようとする^{けいれん}と、
吐き気、異常な発汗、筋肉の痙攣や頭痛、強烈な悪寒、
激しい興奮、さらに震えや幻覚といった禁断症状に
苦しめられます。



国際的な統計

日 本では、有機溶剤の乱用があらゆる薬物乱用の中で最も深刻な問題になっています。薬物乱用で逮捕された若者のうち、有機溶剤の使用で逮捕された数が最も多いということです。

✕ 日本で2007年に発表された調査結果によると、精神医療施設で薬物乱用の治療を受けている患者のうち、44.3%が有機溶剤から薬物乱用を始めていることがわかりました。

✕ アメリカ合衆国での2002年から2006年までのデータを統合した調査によると、年間平均59万3000人の若者（12歳から17歳）が、アンケートに回答する前の年に有機溶剤や吸入ガスを取り始めていたことがわかりました。

✕ 2290万人以上のアメリカ人が過去に有機溶剤や吸入ガスを乱用したことがあります。

✕ 2008年に発表された統計調査によると、アメリカのある州では、有機溶剤や吸入ガスの中毒により、年間平均3800人以上が緊急治療室に運び込まれ、450人以上が入院しています。

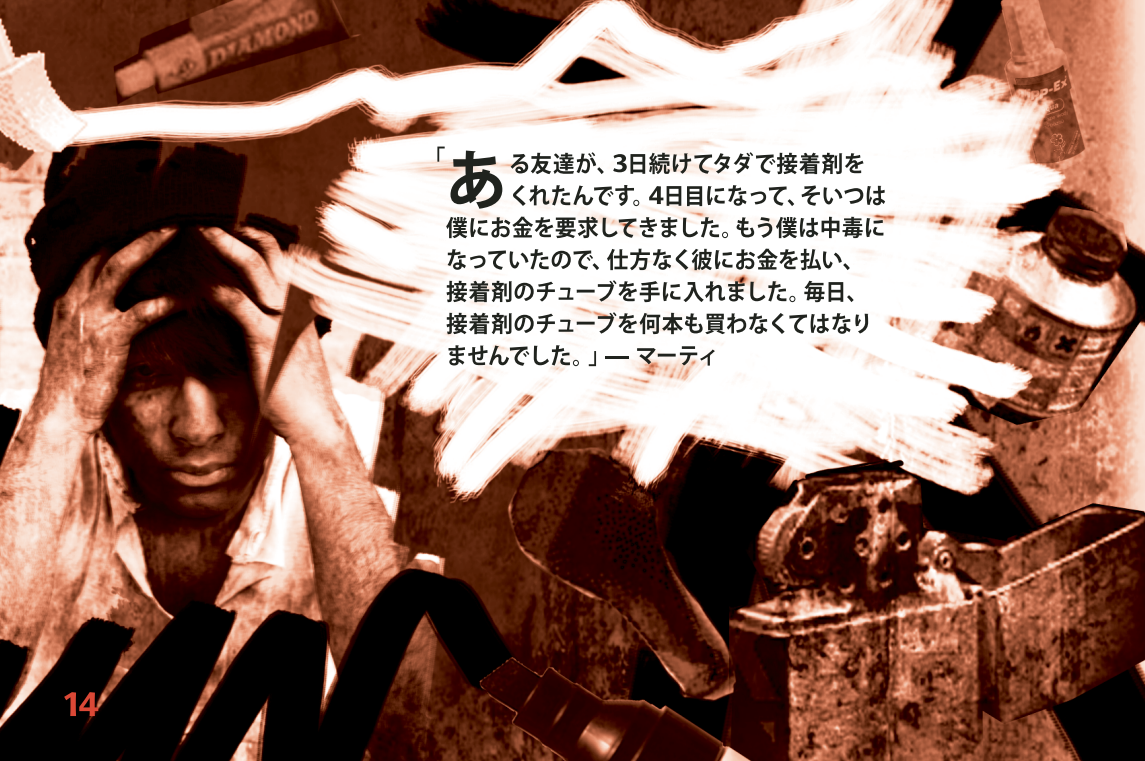
- ✖ アメリカ合衆国の学生の5人にひとりが、中学2年生になるまでに有機溶剤や吸入ガスの乱用を経験します。2007年には、有機溶剤や吸入ガスは12歳から13歳の若者によって最も頻繁に乱用される薬物となっています。
- ✖ 「物質吸入突然死症候群」で死亡した人の22%は、過去に有機溶剤や吸入ガスの乱用歴がなく、それらを初めて使用した人たちでした。
- ✖ 「アルコール・薬物等に関する欧州学校計画」によると、ヨーロッパでは12歳から16歳までの若者の20%が、有機溶剤や吸入ガスを乱用した経験があります。
- ✖ ケニアのナイロビにはホームレスの子供が約6万人いますが、その大半が何らかの種類の有機溶剤や吸入ガスの中毒になっています。
- ✖ アメリカ合衆国の2006年「薬物使用と健康に関する全国調査」によると、12歳から17歳の若者のうち1100万人が、前年に有機溶剤や吸入ガスを取っていると報告されています。

有機溶剤や吸入ガスの乱用で死亡した人の22%は、乱用歴のない初めての使用者でした。

パキスタンのカラチでは、80%から90%のストリート・チルドレンが接着剤やシンナーを鼻から吸っています。

80-90%

22%

A man with a distressed expression, his hands pressed against his head, is the central figure. He is surrounded by a chaotic scene of industrial debris, including a large, light-colored brush, a metal can labeled 'EX', and various mechanical parts. The overall color palette is a monochromatic, warm brown, creating a somber and gritty atmosphere.

「ある友達が、3日続けてタダで接着剤をくれたんです。4日目になって、そいつは僕にお金を要求してきました。もう僕は中毒になっていたんで、仕方なく彼にお金を払い、接着剤のチューブを手に入れました。毎日、接着剤のチューブを何本も買わなくてはなりませんでした。」— マーティ

さまざまなタイプの 有機溶剤/吸入ガス

有機溶剤/吸入ガスは、以下のような4つのタイプに分類できます。

液剤（リキッド）

常温で揮発するもの。シンナー、脱脂洗浄剤、ガソリン、接着剤、修正液、マーカー・ペンのインクなど、簡単に手に入るさまざまな家庭用・工業用製品に含まれています。

スプレー

塗料スプレー、消臭剤、ヘアスプレー、調理用の植物油のスプレー、織物防護用のスプレー。

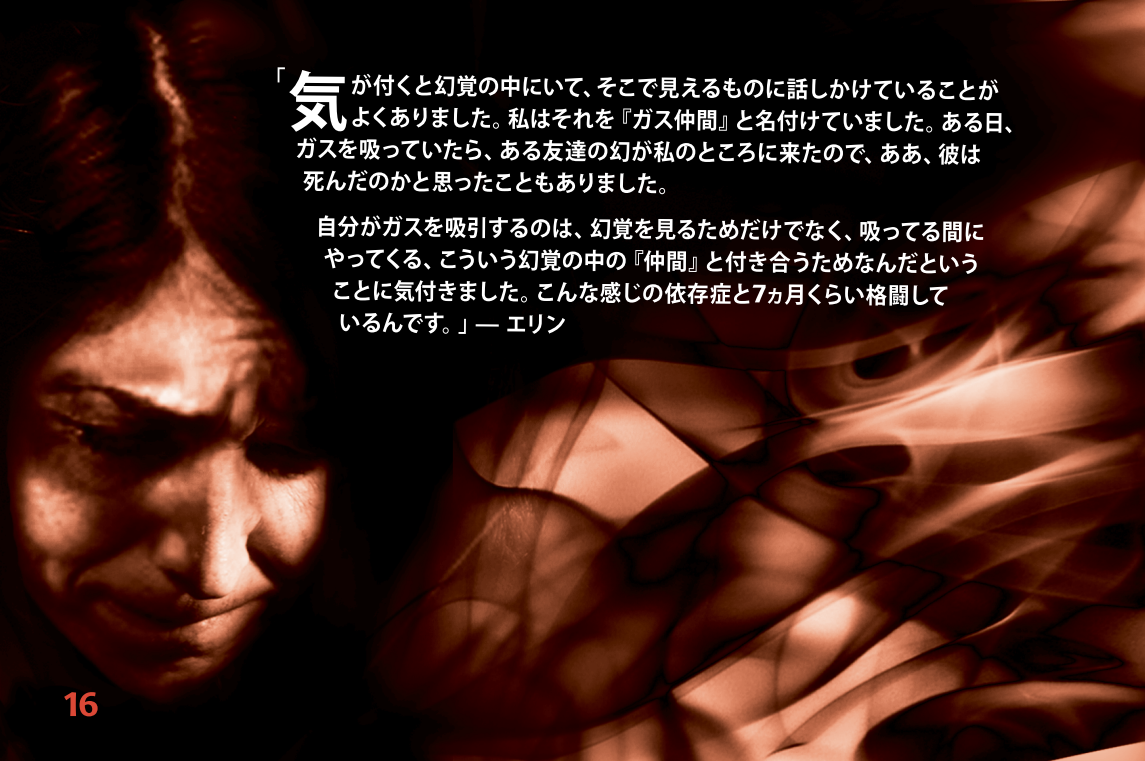
ガス

医療用麻酔剤（エーテル、クロロホルム、亜酸化窒素、いわゆる「笑気ガス」）、ライターのガス（ブタン）、プロパン・タンク、ホイップ・クリームのスプレー缶、冷却剤など。

亜硝酸化合物

防腐剤、皮クリーナー、芳香・消臭剤などに含まれる化学合成物質。これは中枢神経系（脳や脊髄）に直接作用する、特殊なタイプの吸入ガスと考えられています。一般に「ポップパーズ」または「スナッパーズ」と呼ばれ、主に性的興奮を高めるために使用されます。





「**気**が付くと幻覚の中において、そこで見えるものに話しかけていることがよくありました。私はそれを『ガス仲間』と名付けていました。ある日、ガスを吸っていたら、ある友達の幻が私のところに来たので、ああ、彼は死んだのかと思ったこともありました。

自分がガスを吸引するのは、幻覚を見るためだけでなく、吸ってる間にやってくる、こういう幻覚の中の『仲間』と付き合うためなんだということに気がきました。こんな感じの依存症と7ヵ月くらい格闘しているんです。」— エリン

有機溶剤/吸入ガスは法律で認められている？

有機溶剤や吸入ガスは、アメリカ合衆国の統制薬物法（Controlled Substances Act）によって規制されているものではありませんが、アメリカの18の州では、有機溶剤/吸入ガスとして乱用されることの多い製品を、未成年に販売したり配布したりすることに制限を設けています。いくつかの州では、有機溶剤や吸入ガスの販売、配布、使用および所持に対し、罰金や懲役を科したり、治療を義務付ける制度が導入されています。

アメリカのいくつかの州には、亜酸化窒素を娯楽目的で使用することを禁止する法律があります。

西オーストラリア州と南オーストラリア州のいくつかの自治体では、ガソリンを鼻から吸い込むことを違法とする条例が可決されました。ビクトリア州と西オーストラリア州では、正当な根拠があれば、有機溶剤や吸入ガスを所持していると見られる人を身体検査し、物質を押収することができます。

イギリスのイングランド地方とウェールズ地方では、揮発性の化学物質を吸入や酩酊状態になる目的で使う可能性があると思なされる正当な理由がある場合、小売店が18歳未満の人にそうした物質を販売することは違法となります。



有機溶剤/吸入ガス：

意識を変容させるために、または宗教儀式の一部として、お香や精油、樹脂、香辛料、香水などから揮発するガスを吸入する行為には、エジプト、バビロニア（現在のイラク）、インド、中国の古代にまでさかのぼる歴史があります。

ある研究者によると、古代ギリシャでは、神殿の巫女が「デルファイの神託*」を受け
る際、意識状態を変容させるために揮発物を吸入していたとのことです。

1800年代前半には、亜酸化窒素やエーテル、クロロホルムといった麻酔剤が陶酔感
を得る目的で広く乱用されていました。

亜酸化窒素はアルコールの安価な代用品と考えられていました。亜酸化窒素
はイギリスの科学者ハンフリー・デビー卿によって世に広められました。

デビー卿は1799年に亜酸化窒素のパーティーを開き「笑気ガス」とい
う言葉を造りました。亜酸化窒素に麻酔効果があることに注目した
デビー卿は、このガスは手術にも使えると提案しましたが、それが
実験されたのは半世紀後のことでした。

19世紀のヨーロッパとアメリカでは、娯楽のための麻酔薬乱用が
広まり続けました。

禁酒法時代（1920年代）のアメリカでは、アルコールが違法だった
ため、娯楽用の薬物としてエーテルが使用されました。

*古代のギリシャ人たちは、アポロ神がデルファイの神殿で巫女たちに神託を告げている
と信じていました。

その歴史



ハンフリー・デビー卿

1940年代に入ると、有機溶剤、主にガソリンの乱用が流行しました。

アメリカ合衆国での吸入ガスの乱用は1950年代に増加し、現在は思春期の若者の間で広がっています。

1960年頃になると、「シンナー遊び」はペンキ、ラッカーシンナー、マニキュアの除光液、靴クリーム、ライターのカスのガス、塗料スプレーなどのさまざまな商品の乱用へとエスカレートしました。

近年は、接着剤やガスを鼻から吸う行為が、南アジアやメキシコ、東ヨーロッパ、ケニアなど、世界各地のストリート・チルドレンの間で広がり、問題になっています。こうしたストリート・チルドレンは、空腹や寒さや自暴自棄による苦痛を麻痺させるために有機溶剤や吸入ガスを使っています。

ガスや塗料スプレーを鼻から吸う行為は、カナダやアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドといった国々の遠隔地や僻地、また太平洋上の島々などにも広がっています。



薬物についての真実

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量に違いがあるだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人の心にも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行

動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物はすべての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

A black and white photograph of a person standing on a rock in a lake, looking out at mountains. The person is silhouetted against the bright sky and water. The mountains in the background are also silhouetted. The water is calm and reflects the sky. The overall mood is contemplative and serene.

本当の解決策は、事実を認識し、
最初から薬物など使用しないことです。

なぜ人は薬物を取るのでしょうか？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避するため。
- リラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかありません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



参考文献

“Inhalant Abuse,” National Institute on Drug Abuse (U.S.)

“Inhalants Pose Health Threat to Teens,” Iowa Department of Public Health, 24 Mar 2008

“Inhalant Use across the Adolescent Years,” National Survey on Drug Use and Health, 13 Mar 2008

National Inhalant Abuse Taskforce Final Report, Melbourne, Australia, Nov 2005

“Inhalants,” Timothy Kaufman, M.D., emedicine.com, 9 Jul 2007

“About Inhalants,” National Inhalant Prevention Coalition

“Intelligence Brief: Huffing,” National Drug Intelligence Center, Nov 2001

“Inhalants: Description/ Overview,” U.S. Drug Enforcement Administration

“Inhalant Abuse,” National Institute on Drug Abuse Research Report Series

“Huffing—Inhalants,” National Education Foundation of America

“NIDA InfoFacts: Inhalants” National Institute on Drug Abuse

警察庁刑事局組織犯罪対策部
「平成19年度中の薬物・銃器情勢」(2008年4月)

主任研究者：和田清「薬物乱用・依存等の実態把握と乱用・依存者に対する対応策に関する総合研究報告書」2007年3月

写真：

4ページ（接着剤）：
BigStockPhoto; 7ページ：Thomas Tamm; 8ページ：Chadwick Meyers; 14ページ：iStockphoto; 18ページ：Talaria Enterprises

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに22の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。新しいドラッグが次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっていきます。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

真実を知ってください：薬物

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤・吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

さらに情報を知りたい方、またはこの小冊子シリーズのいずれかをさらに何部かご希望の方は、下記までご連絡ください。



Foundation for a Drug-Free World
1626 N. Wilcox Avenue, #1297
Los Angeles, CA 90028 USA
drugfreeworld.org
info@drugfreeworld.org
1-818-952-5260

薬物のない世界のための財団
日本支部
〒170-0001 東京都豊島区
西巣鴨1-17-5
パークホームズ西巣鴨308
TEL：03-5394-0284
Eメール：info@drugfreeworld.jp
drugfreeworld.jp